

第4回日本・韓国・台湾ネットワーク会議 開催報告

▶▶▶ 国際部

平成28年10月18日、19日に、第4回 日本・韓国・台湾ネットワーク会議（ネットワーク会議）を開催しましたので、その概要を報告します。

1. はじめに

本会議は、電子マニフェストを導入している日本、韓国、台湾の電子マニフェスト運用機関等が、電子マニフェスト制度や産業廃棄物に関する情報交換を行うことを目的として、JWセンターの提唱により始まりました。第1回会議が平成25年12月に東京で開催され、第2回会議が平成26年10月に

台北、第3回会議が平成27年10月にソウルと各国で開催され、今回で第4回目を迎えました。

会議には、日本からは、JWセンターの9名が、韓国からは韓国環境公団（Keco）の4名が、台湾からは行政院環境保護署（EPA）の1名及び環資国際有限公司（ERI）の2名が参加しました（写真1）。



写真1 会議参加者(各代表者等)

2. 会議の概要

会議は、表1に示すように進められ、10月18日には、モーニングセッションとアフタヌーンセッションのテーマごとに、JWセンター、Keco、EPA・ERIからの講演が行われ、翌19日には、東京二十三区清掃一部事務組合葛飾清掃工場を訪問しました。

18日の会議は、始めに、JWセンター岡澤和好理事長より開会の挨拶（写真2）があり、続いて、来賓より挨拶をいただきました。

■モーニングセッション

●日本

JWセンター麻戸理事が、日本の電子マニフェ

表1 会議のスケジュール

18日(火)

■モーニングセッション

テーマ：廃棄物の適正処理と情報管理の重要性について

発表国	講演タイトル
日本	廃棄物の適正処理と情報管理の重要性
韓国	Allbaroシステムの効果的な活用
台湾	台湾における産業廃棄物の管理及び電子マニフェストの効果的な活用

■アフタヌーンセッション

テーマ：廃棄物の現状や問題について

発表国	講演タイトル
日本	災害廃棄物処理の高度化
韓国	韓国におけるリサイクル可能物のオンラインマーケット
台湾	台湾における廃棄物の再生利用管理－現状と課題－

19日(水)

■視察訪問

視察先	葛飾清掃工場(東京都葛飾区水元1-20-1) ビデオ視聴(15分間)、施設見学(1時間15分)
-----	----------------------------------------------------



写真2 岡澤理事長の挨拶



写真3 麻戸理事の発表

ストシステムJWNETの利用状況の概要に加え、行政機関に提供している行政情報システムの仕組みと電子マニフェスト情報の活用について、報告しました(写真3)。行政情報システムにより、都道府県・政令市は、電子マニフェストの登録・報告等の実施状況を、随時照会することが可能となることや、各種統計情報等をダウンロードできる仕組みにより、廃棄物行政の施策立案等に活用できることなどを紹介しました。

●韓国

Mr. Kangが、韓国の電子マニフェストシステムAllbaroの概要、利用状況及び省庁間のシステム連携による電子マニフェスト情報の活用について、報告しました(写真4)。韓国の各省庁では、



写真4 Dr. Kangの発表

異なるシステムを使用していますが、データを連携させることで情報活用を図っていて、各システム間のデータ連携件数は、2013年は643,298件、2014年は724,335件、2015年には731,190件と増加傾向にあるとのことでした。

た。

●台湾

Dr. HougとMs. Niが、台湾における電子マニフェスト情報を活用した廃棄物排出に係る分析結果やリアルタイム追跡管理システムについて、報告しました(写真5、6)。台湾ではGPSを活用したモバイルアプリを導入しており、パトロール中に、周囲の廃棄物の運搬車両のマニフェスト記載情報や運行経路等をリアルタイ



写真5 Dr. Hougの発表

第4回日本・韓国・台湾ネットワーク会議 開催報告



写真6 Ms. Niの発表

ムで確認できることが紹介され、さらに、新たに開発した統計分析システムのデモンストレーションが行われました。

また、廃棄物の定義の見直しに関し討議を行い、各国の背景や現状の情報を共有しまし

た。

■アフタヌーンセッション

●日本

(一財)日本環境衛生センター藤吉副理事長が、災害廃棄物処理の高度化について報告をしました(写真7)。災害廃棄物の仮置き場における分別のポイントや、前処理における可燃系または不燃系混合ごみの分別の留意事項や、焼却処理において改善が必要な事項などが紹介されました。また、平成27年9月に発足したD.Waste-Net(災害廃棄物処理支援ネットワーク)についても、紹介がありました。

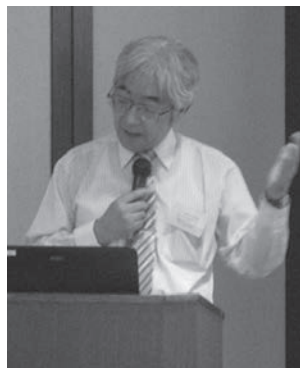


写真7 藤吉副理事長の発表

●韓国

Ms. Choiが、韓国におけるリサイクル可能資源のオンラインマーケットについて、報告しました(写真8)。2012年に開始された同マーケット

は、韓国政府により運営されており、ユーザーは無料で使用できます。また、地理的情報システムを活用した検索機能により、売り手と買い手の最適マッチング機能などを備えています。同オンラインマーケットの設立により、従来は処分されていた残渣物のリサイクル促進や処理に係る運送費用の削減などの結果が出ているとのことです。



写真8 Ms. Choiの発表

●台湾

Mr. HwangとMs. Niが、台湾におけるリサイクルの現状や課題について報告しました(写真9)。台湾では、廃棄物の排出からリサイクル後の再生品の使用までの過程を通して追跡できるシステム整備をしており、廃棄物のリサイクル率は80%に達しているとのことです。しかし、人口密度の高さや国土の狭さを背景に、埋立処分場の減少や新規建設に係る反対運動、さらにはリサイクル品の品質の確保等が課題とのことでした。



そのほか、日本と韓国の最終処分場に係る現状や取組が紹介され、情報共有がなされました。

3. 終わりに

第4回目を迎えた今回の会議では、各国の電子マニフェストシステムの適正な運用にとどまらず、蓄積された情報をビッグデータとして活用する各国の取組が、共有されました。また、韓国、台湾の講演では、国として廃棄物のリサイクルに取り組む強い姿勢が紹介され、限りある資源をいかに

守りつつ成長をしていくかという、共通の課題についても討議する機会となりました。

ネットワーク会議は、今後も日本・韓国・台湾の情報交換の場として、継続して開催していくこととしており、第5回ネットワーク会議は、平成29年に台湾で開催される予定です。